

# (参考) 那覇港港湾計画 | 将来像 3「安全・安心」

## <安全・安心>

### 【将来像Ⅲ】 沖縄の経済・生活の強靱化を支える“みなと”

#### ★ 戦略5 平時及び災害時等の安全かつ安定的な港湾利用環境の確保

- 災害時の緊急物資輸送等の機能を確保する耐震強化岸壁等の整備(新規RORO 船岸壁等)
- 防災計画に基づくハザードマップの整備・更新、避難機能を備えた施設の整備、避難訓練の実施



港を利用した緊急物資輸送の様子 (釜石港、H23年3月)

東北地方の港湾機能継続計画(BCP)資料より



R元年4月 総合物流センターが  
津波緊急一時避難施設と協定

出典: 那覇市HPより

出典:(株)那覇港総合物流センターHPより

- 領海保全活動の安定的実施に必要な、巡視船の係留環境の確保

- 心頭間臨港道路の整備(橋梁等)による港湾車両と一般車両の分離

- 新港心頭・浦添心頭内の臨港道路の再配置による物流と人流の分離



- 主要臨港道路における渋滞対策の実施



提供: 那覇港湾・空港整備事務所

- 港内の船舶航行状況に応じたポートラジオの導入の検討



- 荷捌き地の拡張、旅客の利便性・快適性の向上等、離島航路の安定運航の維持



※泊心頭の岸壁背後における物流車両の駐車

- 官民が連携した放置艇・放置車両等の撤去・防止、路上駐車の解消
- 港湾の開発・運営等の安定的実施に必要な、作業船やタグボート等の係留環境整備



タグボート係留状況(参考: 新港心頭)



立体駐車場の例(参考: 那覇心頭)

# (参考) 那覇港港湾計画 | 将来像4「持続可能な開発」

## <持続可能な開発>

### 【将来像Ⅳ】 持続可能な発展を実現する“みなと”

- ★ 戦略6 経済活動と水辺に親しむ豊かな県民生活、自然環境が共生する良好な港湾環境の創出
- ★ 戦略7 人材と技術を育成する実証フィールドとしての港湾空間の活用

- 港湾労働者、地域住民等に配慮した緑地、広場、休憩所等の確保
- AIやIoT等のICTを活用した港湾の建設・維持管理・運営サイクル全体のスマート化・強靱化を図る「沖縄型スマートポート」の形成



参考: 名古屋港富浜緑地  
出典: (公財)名古屋港緑地保全協会HPより



「次世代高規格ユニットロードターミナル」のイメージ  
参考: 港湾の中期戦略(PCR12030)  
(H30年7月 国土交通省港湾局)より

- 研究開発成果や革新技術を試す実証フィールドとしての港湾空間の活用

- 自然環境・景観に配慮した港湾の形状
- 「自然的環境を保全する区域」の設定、海洋教育等での活用



カーミーゾーでの自然観察会の様子  
出典: 浦添市HPより

- 異文化理解・国際理解の促進に係るイベントや、沖縄の歴史・文化の学習の場等への港湾施設の活用
- 産官学の協力による学生向けの那覇港見学会の開催等による、港湾・海事分野の教育及び人材育成・確保の推進

参考: 三重城歴史学習の様子



出典: 那覇港湾・空港整備事務所HPより



- 新エネルギーの活用及び港湾活動の脱炭素化の推進(カーボンニュートラルポートの形成)  
※クルーズ船への陸電供給のを検討中(泊8号) ※電動化荷役機械等の導入



# (参考) 沖縄の国際物流に関する提言 (内閣府)



出所：内閣府沖縄総合事務局公式HP ([PDF\\_shiryuu\\_2.pdf \(ogb.go.jp\)](#))

## 参考資料

- 那覇市都市計画マスタープラン
- 那覇港港湾計画
- 民間事業者ヒアリング・サウンディング（個別事業者）
- 関係者一覧

## 民間事業者ヒアリング < 三菱地所 >

三菱地所様より、目的施設の設置が重要である、泊港・とまりんと一体的な開発を行うことが望ましい等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アクセスの観点から、<b>不特定多数を対象とした施設ではなく特定のターゲットを対象とした施設</b>を作るべきである</li> <li>• 沖縄全体で<b>ヨットの停泊場が不足</b>しており2年待ちとなっている。加えて台湾人によるヨット停泊のニーズが高まっているため、<b>停泊場の設置</b>も選択肢となり得る</li> <li>• <b>商業施設は水揚げ・セリとセットで考える必要はなく、景観の良い漁港西側に別途設置</b>しても良いのではないか。その場合、商業施設設置を想定しているエリアは駐車場として活用することも考えられる</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>那覇および沖縄全体において漁業の体験施設や海産物をその場で食べる施設は少ないため、ポテンシャルは高い。朝の観光コンテンツにもなり得るのではないか</b></li> <li>• 浦添から那覇にかけての港湾エリアにおいて、漁港は泊・牧港漁港の二つである。那覇に滞在する方は泊漁港の利用が想定されるため、漁港機能を活かすことが重要である</li> <li>• 台湾の夜市のような<b>雑多な雰囲気</b>を魅力として<b>打ち出す</b>方向性も想定できる。その場合ホテル等を建設するよりも、<b>地元住民が集う場</b>として観光スポットとする方が好ましい。浦添や波の上との差別化も図ることができる</li> <li>• <b>泊港（とまりん）と連携し、人を誘導する施策</b>が重要である</li> <li>• 車で来場する際に入口が分かりづらいため工夫する必要がある</li> <li>• <b>排他的な雰囲気があるため、観光客が訪れやすい雰囲気を作る</b>必要がある</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>泊港・とまりんエリア</b>は開発が進んでおり、現在人気が高まっていることに加え、泊漁港に繋がる入り口の役割を担っている。そのため、<b>一体的な開発</b>を行うことが望ましい</li> </ul>

## 民間事業者ヒアリング <大和リース>

大和リース様より、一度更地とすることも選択肢となり得る、地元住民をターゲットとし普段使いの商業施設を設置することが適している等の意見が挙げられた。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 既存施設に囚われず、建物を解体して更地とすることも視野に入れ、ゼロベースで戦略を練る必要がある</li> <li>• 中核となる施設を明確にし、他の施設配置を検討するべきである</li> <li>• 離島から泊港に戻る際に泊漁港の全景が見える。その際に魅力的な施設が見えれば立ち寄る観光客が増える</li> <li>• 開発に当たっての優先順位はステークホルダーにより異なる</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ターゲットを地元住民と設定するか、観光客と設定するかで目指す方向性が異なる</li> <li>• いゆまちは沖縄の昔ながらの漁港のイメージであるため、北谷のフィッシャリーナとはイメージが異なる</li> <li>• ターゲット層を地元住民とするか観光客とするかにかかわらず、魚市場を活用して賑わいを創出する方針は適切である</li> <li>• 規模を考慮すると、泊漁港は地元住民をターゲットとし、普段使いの商業施設を設置することが適している</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 海岸線沿いの土地は面で捉える必要があるため、隣接する浦添市についても考慮する必要がある。那覇市、浦添市間での連携も一考の余地がある</li> </ul>

## 民間事業者ヒアリング < 金秀建設 >

金秀建設様より、商業施設の中核テナントは漁港関係者が担うべきである、個人船の停泊スペースや権利を付随させたマンションの建設も選択肢となる等の意見が挙げられた。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 漁港部分は漁業と観光で活用し、北部の船溜まりはレジャーとして活用するのが良い</li> <li>• 景観を活用する場合、2,3階建てではなく、4階以上の高さがあった方が好ましい</li> <li>• 商業施設のテナントは8割が漁業関係者、2割を外部事業者運営とし、中核テナントは漁協や卸売りが担うことが好ましい。商業施設として大きな規模にはならないため、PFIで民間事業者が運営を行うのはハードルが高い</li> <li>• PFIを実施した場合は賃料の発生に伴い現事業者の金銭負担も増えるため、賃料については行政が補助することが望ましい</li> <li>• 現状では商業に関して中核となる収入が弱い</li> <li>• 那覇北道路建設に伴う規制や分断への対応が難しい。高度があるため、高さの面でも制約となることが想定される</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 船溜まりに個人船の停泊スペースを設置できると良い。現状、個人船の停泊スペースは西海岸では宜野湾にしかないため、需要が高い</li> <li>• 漁港内に船置き場の権利をつけたマンションを建設するのはどうか</li> <li>• 泊漁港に入る際の高揚感を創出する必要がある</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<p>—</p>

## 民間事業者ヒアリング < 屋部土建 >

屋部土建様より、埋め立てにより用地を確保することも選択肢となる、宿泊施設を設置した場合は単独で採算をとることは難しい等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>港を埋め立てた上で区画整理を行う手法はよく使用される。関係者の意向を尊重し、多くの機能を導入するためには<b>港の片方を埋め立てることが必要</b>と史料する</li> <li><b>飲食スペースは不足している</b></li> <li><b>駐車場については地下および屋上に設置</b>することが考えられる</li> <li><b>那覇港管理組合との連携</b>が必要と史料する。那覇港については高級ホテルも事業参画意向を示しており、それを踏まえて泊漁港をどのような場所と位置付けるか検討する必要がある。那覇港の状況を踏まえると、<b>泊漁港で宿泊施設を建設することは厳しい</b></li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>海外観光客もいゆまちを利用しているため、やり方次第で<b>観光客をターゲットした集客も可能</b>である</li> <li><b>居酒屋を設置することで24時間集客</b>が可能になるのではないかと</li> <li>飲食施設に加えて<b>水揚げ体験等の集客施設</b>が備われば、宿泊施設の建設も選択肢となる。一方で<b>宿泊施設を設置した場合、単独で採算を取ることは難しい</b>。宿泊施設内の一部を漁協等にオフィスとして貸出し、賃料を安定的な収入源とすることが想定される</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事業者が投資するか判断する際は、<b>宿泊施設の有無が最も重要</b>である</li> <li>当社が事業参画する場合は、飲食店舗や漁港関係者に建物を貸すことによる賃料収入を想定している。出資して共同参画する場合は<b>施設の一部を所有することも想定</b>される</li> </ul>



## 民間事業者ヒアリング <リーガロイヤルグラン沖縄>

リーガロイヤルグラン沖縄様より、体験型施設や食文化を堪能できる施設は観光客の需要が高い、雨天利用が可能で長時間滞在できる施設が望ましい等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
導入機能実現に向けた サウンディング	-
誘客手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 最近では事前によりサーチしてくるインバウンド観光客が増えており、フロントで質問される機会は減少傾向にある</li> <li>• 観光客は自然体験を希望する場合は北部へ行く。那覇市近郊を訪れる場合は、自然体験以外の体験（モノづくり、文化体験、他）を目的としているケースが多い。<b>海にまつわる体験型施設、イベント等があれば観光客に薦めやすい</b></li> <li>• <b>食に関係する施設も観光客に薦めやすい。沖縄特有の素材を使用した料理</b>を提供することが望ましい。現状では国際通りの飲食店が候補となるが、そうした飲食店は地元住民の利用は少ない。<b>地元住民と観光客の利用を両立できる施設が望ましい</b></li> <li>• 体験＋食事＋散歩等、<b>同じ場所で様々な体験ができ半日～1日を過ごせる</b>場所は沖縄県内には少ない。<b>子供向けの海にまつわるテーマの体験施設</b>があれば半日楽しめる場所となるのではないか</li> <li>• 北谷美浜は週末には花火も開催しており、地元客も観光客も訪れている。<b>定期的なイベント開催することで観光客だけではなく地元住民も集客できるもの</b>と思料する</li> <li>• 沖縄県内の施設はほとんどが天候に左右されるため、<b>雨天時にも利用可能</b>であることが好ましい。完全屋内ではなくても良い</li> <li>• <b>漁港全体で一貫したテーマ</b>が必要である</li> <li>• 集客のために<b>泊港（とまりん）からの連続性</b>は必要である</li> <li>• <b>セリの見学</b>は希少な体験であり、呼び込みの目玉として適している</li> </ul>
その他特記事項等	-

## 民間事業者ヒアリング <ノホテル沖縄>

ノホテル沖縄様より、漁業を前面に押し出すべきである、観光客を呼び込むためには地元住民で賑わいを創出する必要がある等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「<b>見せる漁業</b>」というキーワードが大事である</li> <li>• 沖縄でまぐろが獲れることを知らない人が多いため、アピールすべきである</li> <li>• 那覇市内ではホテルが飽和している。泊漁港にホテルを建てるのであれば、エリアでの盛り上がりが必要である</li> <li>• <b>公共交通機関での来場</b>を可能とする必要がある</li> <li>• 現状の泊漁港は汚いため改善が必要である。放置船問題も解消する必要がある</li> <li>• <b>北谷のように海側を整備し、民間が主導で開発を進める</b>ことが好ましい</li> <li>• 整備期間に現在定着している顧客が離れるのは勿体ない。<b>継続的な集客</b>が必要である</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>那覇市の「市魚」はマグロ</b>であり、もっとアピールする必要がある</li> <li>• <b>観光客は地元で盛り上がっている場所を訪れる。栄町が好例である</b></li> <li>• 過去に開催していた「<b>那覇シーサイドフェスティバル</b>」のような<b>イベントを開催</b>してはどうか。民間企業も巻き込み、海で遊ぶ体験や花火の開催、飲食ブースの出店等が想定される</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 過去に行っていた「<b>那覇シーサイドフェスティバル</b>」（那覇市主催）を復活することも考えられる</li> <li>• <b>泊港、波の上側エリアも含め一体で検討</b>する必要があるのではないか。一体として盛り上がれば<b>海路拠点間を繋ぐ</b>ことが可能となる</li> </ul>

## 民間事業者ヒアリング < 沖縄フルーツランド >

沖縄フルーツランド様より、ホテルの建設は現状難しい、インバウンド観光客が飲食目的で訪れる施設という方向性を拡充すべきである等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>アクセスと駐車場</b>について最優先で検討する必要がある</li> <li>• <b>ホテルは、観光の中心である国際通りから距離があるため、現状では集客が見込めない。</b>泊漁港の施設が充実すれば可能性が出てくる。建設する場合、大規模なホテルの建設は難しい。客室数は100部屋以下が想定されるが、那覇市内の市場で勝負ができるか疑問符が付く。部屋の大きさは1室4名利用を前提とし40㎡～45㎡の広さが必要と思料する。<b>ホテル内の施設については部屋からセリや水揚げの様子を見学できることが好ましい。インバウンド観光客向けに足湯や温泉を併設することも考えられる</b></li> <li>• 泊漁港の利用者は地元住民とインバウンド観光客の割合が高い。ターゲットをインバウンド観光客に据えるのであれば、イートインスペース等を設置することが望ましい。一方で<b>過度に混雑した場合に、地元住民が利用を回避する可能性がある</b>点は考慮が必要である</li> <li>• <b>インバウンド観光客が飲食を目的として訪れる場というイメージは確立している</b>ため、それを拡充する方向性が好ましい</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 野菜も含め、<b>地元食材の活用が重要</b>である。無理におしゃれな観光施設とする必要はなく、<b>昔ながらの沖縄を体感できる場所</b>と位置付けるのが望ましい</li> <li>• アクティビティの種類により免許の要不要があるため、<b>マリンレジャーのターゲットを明確にする</b>必要がある</li> <li>• 現在はレジャー利用者が個人で施設に向かう必要がある。駐車場を整備し集合場所とすることで、<b>マリン事業者が利用者を送迎</b>することも可能となる</li> <li>• シーフードBBQができると良い</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<p>—</p>

## 民間事業者ヒアリング < 琉球銀行 >

琉球銀行様より、遊歩道を設置する場合は安全面の確保が課題である、地元住民をターゲットに据え結果的に観光客も呼び込むことが現実的である等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>対象地で事業を行う際は、<b>漁業関係者との連携が必須である</b>。漁業関係者との協議や、高齢化に伴う後継者問題が参入事業者にとって不安要素となり得る</li> <li><b>泊港や那覇港と連携し、船での移動を可能とすることが考えられる</b></li> <li>漁港内のエリア間が通路で繋がっていると好ましい。また、エリア内の移動に際し、<b>夏の暑さ対策</b>を講じる必要がある</li> <li>海沿いに<b>遊歩道を設置する場合、不良の溜まり場となることを防ぐ必要がある</b>。沖縄の防波堤は薄暗い箇所が多く、不良の溜まり場となっているケースが多い。北谷の遊歩道が好事例であり、参考になる。明るさと人目が肝心である</li> <li>沖縄県内において、<b>船の停泊場所は限定的であるため貴重</b>である。また、船舶保有者は富裕層が多いため、ビジネスチャンスとなり得る</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li><b>那覇中心地から泊漁港に至る道のり</b>に、商業施設や観光施設等がほとんどないことも課題である</li> <li>レジャー施設としての活用は、<b>船の活用と周辺エリアとの連携</b>が肝である</li> <li><b>観光客をターゲットに据えるのではなく、地域住民が利用する場として開発し、結果的に観光客が訪れる流れが現実的である</b></li> <li>漁港は早朝～午前中のイメージが強いため、<b>夜間も集客できればチャンスが拡大する</b></li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>泊漁港は周辺の交通量も少なく、利便性も良くないので、那覇市が率先して<b>数値的な目標を設定</b>することが肝要である</li> </ul>

## 民間事業者ヒアリング < JTB >

JTB様より、車を利用しない層へのアプローチが重要である、魚のブランディングが重要である、国際通りとの差別化を図る必要がある等の意見が挙げられた。

質問事項	回答サマリ
<p>導入機能実現に向けた サウンディング</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 那覇市内においてホテルは供給過多であるため、建設する場合は他ホテルと明確に差別化する必要がある</li> <li>• <b>夜間の賑わい創出については、賑わいの規模・種類を検討する必要がある。</b>小規模な賑わいであれば国際通りが既にその役割を担っているため、差別化を図ることが重要である</li> </ul>
<p>誘客手法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 那覇市内に泊まる観光客の8割前後は国際通りを中心に観光しており、ほとんどの場合<b>車は使わない</b>。泊漁港エリアは那覇市内から徒歩30分程度の距離があるため、<b>徒歩で移動する観光客を呼び込む方法</b>を検討する必要がある。道路整備等は車での来場を前提としているが、<b>車を使用しない人々へのアプローチ</b>に重点を置いて検討する必要がある</li> <li>• 泊漁港は市場や飲食物は優れており、<b>場所としての魅力は高い</b></li> <li>• <b>魚のブランディング</b>について検討する必要がある。沖縄の海産物が美味しいというイメージを抱いてもらう必要がある</li> <li>• <b>道の駅を設置することで、地元住民と観光客双方の集客</b>が見込める</li> <li>• 泊漁港は現状<b>地元住民の賑わいが無い</b>。国際通りとの差別化として、<b>地元住民が利用する場として賑わいを創出し、それによって観光客も集客する</b>という流れが重要である</li> <li>• 那覇市内はホテル等、施設面の水準は高い。<b>集客のためにはハードの整備は大前提</b>でありイベント等の<b>ソフト面についてもコンセプトを明確にしたうえで実行する</b>必要がある</li> </ul>
<p>その他特記事項等</p>	<p>—</p>

## 民間事業者ヒアリング < OTS >

OTS様より、船やシャトルバス等のアクセス手段を確保する必要がある、泊漁港1か所で買い物を完結できるようにすることで地元住民の集客を図れる等の意見が挙げられた。

質問事項	回答サマリ
導入機能実現に向けたサウンディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>現状も中国人観光客が訪れているが<b>イトインスペースが不足している</b>ため、拡充する必要がある</li> <li><b>駐車場は必要である。観光客をターゲットとするのであれば、大型バスが5台くらい止められる駐車場が必要となる</b></li> <li>レンタカーを利用しない観光客が増えているため、泊漁港へのアクセスの手段としてパレットの前から<b>シャトルバスを出す等</b>が必要である。<b>シャトルバスがあれば高齢者等、地元住民の利用も増えるもの</b>と料する</li> <li>廃船はレストランとして利用する等の活用検討が可能である</li> </ul>
誘客手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>農協の施設を併設し、<b>泊漁港1か所で買い物を完結できるようにすることで、地元住民の集客を図れるのではない</b>か</li> <li><b>地元住民が利用する場所は安くて新鮮なイメージがつくため観光客も行きたくなる</b></li> <li><b>全天候型かつ半日以上の滞在が可能</b>であることが望ましい</li> <li>観光客を呼び込むのであれば、<b>営業時間を明確にする</b>必要がある</li> <li><b>沖縄の海産物に対するイメージの向上</b>を図る必要がある。<b>なはまぐろはもちろんのこと、それ以外の魚も売り出していくことが重要</b>である</li> <li>セリでは売れない<b>魚を練り物等に加工して販売</b>することで、海産物の口スを減らし、<b>顧客の選択肢拡充</b>にも繋げることができる</li> <li><b>BBQ場を設置</b>し、いゆまちで購入した海産物を食材として利用可能とするのはどうか</li> <li>ダイビング事業者や漁港内の漁師と連携し、<b>釣り船をコンテンツ</b>とすることが想定される。<b>釣り上げた魚を調理し提供</b>できると尚良い</li> <li>観光船や水上バスを導入し、<b>船での集客</b>を可能とできると良い</li> <li>那覇ハーリーやハーリー会館連携することで<b>相乗効果</b>を生まれるのではない</li> </ul>
その他特記事項等	<ul style="list-style-type: none"> <li>完成まで長期の計画であるため、<b>途中で計画をアップデート</b>することが必要である</li> </ul>

## 民間事業者ヒアリング <コングレ沖縄>

コングレ沖縄様より、目指す方向性とコンセプトを明確にする必要がある、MICE観光客を呼び込むためには定期的なイベントの開催が必要である等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
導入機能実現に向けたサウンディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>市場型（築地市場のイメージ）の賑わい創出を目指すのか、MICE型（シドニーのフィッシュマーケットのイメージ）の賑わい創出を目指すのか、<b>那覇市としての方向性を明確にする</b>必要がある。<b>市場型の場合はインバウンドをメインターゲットに据える</b>ことが想定される</li> <li><b>漁港内をエリア分け</b>し、とまりん付近はMICE型、いゆまち付近は市場型で整備を進めることも想定される</li> </ul>
誘客手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>いゆまちで水揚げされた魚を加工・調理し販売することが想定される</li> <li><b>とまりんに魅力的な施設が無い</b>ことも課題である。カフェ等の設置や、港側のウッドデッキに集客力のある店舗を設置することが想定される</li> <li>とまりん付近の公園に<b>キッチンカーが</b>出店し、イベントを開催している。泊漁港や周辺の公園でも実施することが考えられる</li> </ul>
MICE連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>沖縄においてアフターMICEの目的地として最も多いのが国際通り、次いで北谷である。那覇近辺で後泊する場合、<b>泊漁港近辺に人を呼び込むイベント・施設があれば集客が見込める</b></li> <li>シドニーでは毎週末花火を開催しており、それを目的としてMICE参加者が集まっている</li> <li>MICE参加者の呼び込みには<b>イベントの定期的な開催</b>が重要である</li> <li>MICE参加者を集客するためには、<b>漁港としてのコンセプトを明確にし、一体感を創出する</b>ことが重要である</li> </ul>
その他特記事項等	-

## 民間事業者ヒアリング < OCVB >

OCVB様より、駐車場は増設しない方向性も考えられる、沖縄県民の利用を念頭に整備を進めることで長く愛される施設になる等の意見が挙がった。

質問事項	回答サマリ
導入機能実現に向けたサウンディング	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>駐車場はあまり増設しない方向性も考えられる。</b>昨今はレスポンスブル・ツーリズムやサステイナブル・ツーリズム等の影響により、レンタカーを利用しない観光の形も増えている。加えて沖縄では渋滞も問題となっているため、必ずしも車利用者の集客をメインに据える必要はない</li> <li>• <b>シャトルバスの導入</b>等、車の代替となる交通手段を検討する必要がある</li> </ul>
誘客手法	<ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>スポーツ利用者はターゲットとして適しているものと思料する。</b>泊大橋からの景観はよく、ランニングでよく利用されている状況を目にしている。泊漁港整備に際して、<b>休憩所としての利用を促進</b>させるような施設を充実させることでより利用者を増やすことができるのではないかと。また、漁港内に<b>駐輪場を設置することでサイクリング利用者の施設利用</b>も可能となる</li> <li>• 泊港から離島に向かう観光客もターゲットに適している。泊港から泊漁港までは移動可能な距離であるため、<b>離島観光 + 泊漁港観光をセットで考える</b>ことが重要である</li> <li>• 現状の沖縄は観光客を優先した結果、県民が蔑ろにされている側面があり、課題となっている。まずは<b>県民が楽しめることを前提</b>として、観光客も楽しめる施設を設置することが重要である。そのため、港に係る<b>県民の意見をベースに整備を進めることで、長く愛される施設になるもの</b>と思料する</li> <li>• 泊大橋の東側のエリアの雰囲気暗い。泊漁港の入口に隣接する公園も安全面に課題がある。漁港内だけでなく<b>周辺エリア全体で安全性を担保し、明るい雰囲気を作る</b>必要がある</li> <li>• <b>那覇ハーリー</b>の場で<b>アンケートを実施</b>してはどうか。実際に周辺エリアを訪れている際にアンケートを実施することで、実態に即した意見を貰えるものと思料する</li> </ul>
MICE連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アフターMICEの観光地としての利用だけでなく、<b>インセンティブツアーにおける開催地としての利用</b>も考えられる。沖縄においては、都市エリアでMICEが開催できる場所が限られているため需要も高い</li> </ul>
その他特記事項等	-



## 参考資料

- 那覇市都市計画マスタープラン
- 那覇港港湾計画
- 民間事業者ヒアリング・サウンディング（個別事業者）
- 関係者一覧

# 関係者一覧

本事業において直接的な関係者は以下の15団体である。

No	団体名	関係性
1	那覇地区漁業協同組合	水産業関係者（泊魚市場運営委員会）
2	沖縄県近海鮪漁業協同組合	水産業関係者（泊魚市場運営委員会）
3	近海鮪漁業船主協会	水産業関係者（泊魚市場運営委員会）
4	伊良部鮪船主組合	水産業関係者（泊魚市場運営委員会）
5	那覇港管理組合	港湾区域の管理主体
6	沖縄県 農林水産部（水産課、漁港漁場課）	行政機関（県、漁港区域の管理主体）
7	沖縄県遊漁船事業協同組合	港湾区域事業者
8	株式会社日本海洋資格センター	港湾区域事業者
9	買受人協同組合（なはまぐろ市場）	泊魚港区域内事業者（流通）
10	沖縄県南部農林土木事務所（南部地区漁港管理部署）	行政機関（県）
11	沖縄県漁業協同組合連合会	水産業関係者
12	沖縄鮮魚卸流通協同組合（いゆまち）	泊魚港区域内事業者（流通）
13	那覇市マリンレジャー振興協会	港湾区域事業者
14	曙地区校区まちづくり協議会	地域団体
15	那覇市都市計画課	行政機関（市）

---

---

泊漁港将来像構想策定事業（調査業務）

報告書

---

---

発行： 那覇市  
〒900-0021沖縄県那覇市泉崎1丁目1-1  
<https://www.city.naha.okinawa.jp/>

制作編集： 那覇市経済観光部商工農水課  
電話番号： 098-951-3209  
編集協力： 有限責任監査法人トーマツ  
デロイトトーマツファイナンシャルアドバイザー合同会社

---

---